

第4回 福井県LNGインフラ整備研究会 概要

日 時 平成26年7月9日（水）17時30分～18時50分

場 所 都市センターホテル 706会議室

- 議 題
- (1) LNGインフラ整備の検討結果報告
 - (2) 国における関連調査等の状況報告
 - ①ガス事業基盤の強靱性確保に関する調査の結果について
 - ②新たなLNG受入方式（浮体式）の検討について
 - (3) 国家戦略特区の提案について

意見交換概要

委 員

海上基地は、陸上基地に比べて工期短縮等のメリットがあるが、国内で導入事例がなく、経済性や安全面の法整理や技術的課題の検討が必要

民間の活力を活かしてプロジェクトを推進するためには、国土強靱化の観点から基地開発とパイプラインを含めた全体構想を位置づけ、官民一体となった取り組みが必要

委 員

陸上基地では、規制緩和や政策的支援によるコスト削減と電力需要以外の需要創出の組合せが必要

海上基地は魅力的だが、実際のコストや技術的な評価が必要

委 員

海上基地は非常に興味深く、国内に例がないからと逡巡する必要はない

講 師

海上基地はLNG船を貯蔵に使い、気化する場合は船に気化設備を載せる。発電まで行うケースもあるが、地域のニーズによって考えればよい

ブラジル沖の海上基地は、海象条件が結構荒いが普通に運用している。津波に対しても水深がある場合は十分に耐えられると考えるが、シミュレーションによりチェックする必要がある

委 員

海上基地は可能性があるが、事例がないので分からないということ。関電の方で、国交省、福井県も入ったワーキンググループを設け、海上基地の検討をしてはどうか

委 員

日本海側にエネルギーの基地を作る場合、福井ほど可能性があるところはない
海上基地は現実的だが、大規模なLNG基地が陸上にないとパイプラインの整備は実
現せず、地域マターの解決策という方向になってしまう

委 員

受入基地の整備手法だけでなく、パイプラインの整備についても一緒に議論する必要
がある。海上基地にパイプラインが結ばれることにより強靱化の意味が出てくる

委 員

受入基地を浮体設備とすることでパイプラインが整備されなくなるとは考えていな
い

国土強靱化の問題は福井県としても重要であり、パイプラインを敷設するために、い
かにコストを下げられるか検討が必要

委 員

パイプライン、LNG基地、大規模なLNG火力の3つをパッケージでやることに異
論はないと考える

座長まとめ

国土交通省も含め、フローティング基地についてワーキンググループで検討し、まと
まった段階で次回の研究会を開催する